

第2期堺文化芸術推進計画(案)についてのご意見の要旨と本市の考え方

	ご意見の要旨	市の考え方
○重点的方向性1「文化芸術とともに生きる」について		
1	<p>高齢者、障害者の方が利用する文化施設をバリアフリー化し、文化芸術へのアプローチをより進めるために、障害福祉部、長寿社会部との連携を密にし、障害分野においては堺市障害施策推進協議会などの専門部会による定期的なバリアフリーチェックなどを行うか、もしくは現状についての説明や意見の拾い上げなどを積極的に行ってほしい。</p>	<p>高齢者、障害者等すべての方が、安全・安心に文化芸術に親しんでいただけるよう、取り組んでいます。今後も、利用者の現状を踏まえて、ハード・ソフトの両面において更に改善を行い、環境を整えます。</p> <p>さらに、令和3年1月に設立する「堺アーツカウンシル」により、福祉、教育等の社会的課題を解決することをめざします。</p>
2	<p>地域文化会館や、公民館、小学校区毎の地域会館、町内会館、団地等の集会所等身近な施設についても、文化芸術活動に利用できるような方策を考えてほしい。</p>	<p>「堺アーツカウンシル」や地域文化施設において市民文化活動を支援することにより、文化芸術に親しむことができる環境の整備を図ります。</p>
3	<p>鑑賞などの料金については、3,000円以上だと高く感じる人が多いので、市民が文化芸術に触れるきっかけを増やすために、鑑賞等の割引制度（夫婦・家族単位にも）を作ってほしい。</p>	<p>多くの方が気軽に文化芸術に触れていただけるように、公演内容や料金設定を検討の上取り組んでおりますが、引き続きご利用者のニーズの把握に努め、様々な新たな制度について指定管理者と協議し進めます。</p>
4	<p>地域での文化芸術活動を充実させるため、北区に地域文化会館を設置してほしい。</p>	<p>北区には、文化的な催し物の開催が可能な定員846人のイベントホールがある堺市産業振興センターがあります。</p> <p>また、周辺には、良質な音響効果を誇り定員400人のホールを有するサンスクエア堺があります。</p> <p>さらに、令和元年10月1日にグランドオープンしたフェニーチェ堺（堺市民芸術文化ホール）があります。フェニーチェ堺は2,000席の大ホールと312席の小ホールを設えており、地域の皆様が楽器演奏やコーラス、ダンス等様々な文化活動を行うことができる身近な活動拠点であると同時に、多様な文化芸術を創造・発信し、また内外からの優れた舞台芸術に身近にふれることができる文化施設です。</p> <p>現在、北区に新たな文化ホールを建設する</p>

第2期堺文化芸術推進計画(案)についてのご意見の要旨と本市の考え方

		<p>予定はございませんが、今後も用途に応じ、市内公共施設をご利用いただきたいと思いますと考えます。</p>
5	<p>新金岡市民センターの建て替え・充実により北区の文化芸術拠点づくりを充実させてほしい。</p>	<p>ご意見にあります新金岡市民センターについては、施設の耐用年数内にあり、耐震基準についても満たしております。昭和56年に建設され、来年で築40年となりますが、耐用年数は50年となっております。</p> <p>また、市のアセットマネジメント計画に基づき、3年前から計画的な長寿命化にも取り組んでいるところであるため、現状においては建替えは難しいと考えています。</p>
○重点的方向性2「文化芸術で子どもたちを育てる」について		
6	<p>「学校教育における文化芸術活動の充実」と「将来の文化芸術を担う子どもたちの育成」について評価指標の数値の根拠がはっきりしない。当該評価指標は市内の幼・小・中学校の子どもたちの総数を根拠としたうえで目標値を示すべき。</p>	<p>次期計画では、重点的方向性の着実な推進のため、具体的事業との関連性が高い評価指標を新たに設定します。</p> <p>ご意見にあります評価の対象としては、全小中学校を対象とした文化課所管の事業を主に指標としています。事業の推進にあたっては、教育委員会の協力を得て実施していきます。</p>
7	<p>幼・小・中学校の全ての子ども達に対し、教育機関、アーティスト、NPOなどと連携した芸術教育を行うことは大切。また全ての子どもを対象に目標値を設定すべき。</p>	<p>次期計画では重点的方向性2「文化芸術で子どもたちを育てる」を定め、様々なジャンルの芸術家の学校園への派遣等を積極的に実施し、鑑賞やワークショップ等の体験といった文化芸術に触れる機会を更に充実させることで次代を担う子どもたちの育成を図ります。</p> <p>当該重点的方向性の趣旨を考慮すると、次期計画における評価指標は、現時点では実態に即した集計が可能な指標であると考えています。</p> <p>なお、評価指標につきましては、今後の事業展開や社会情勢等を踏まえ、適宜見直しを行います。</p>
8	<p>子どもへの文化芸術の振興のため、フェニーチェ堺を最大限活用し、学校や学年単位等でフェニーチェ堺で芸術に親しむことができる取組を行ってほしい。</p>	<p>本市の中核文化施設であるフェニーチェ堺は、様々な大きさや多様な機能を持つ施設を有しています。そのフェニーチェ堺において多彩な文化芸術に親しむことで、子ども達が</p>

第2期堺文化芸術推進計画(案)についてのご意見の要旨と本市の考え方

		フェニーチェ堺に愛着を感じ、芸術に親しむことができるような取組について、指定管理者と協議し進めます。
9	<p>小・中学校等に対し、一流の文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行うことや芸術家を派遣する等、子供たちに質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保することで、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成することで、優れた文化芸術の創造につなげてほしい。</p> <p>小・中学校の子どもたちに、年に一度はフェニーチェ堺で本物の芸術に触れる機会をつくる具体的な計画にしてほしい。</p>	<p>次期計画では、重点的方向性として「文化芸術で子どもたちを育てる」を定め、フェニーチェ堺をはじめとする市内文化施設や、学校等の様々な施設を活用し、次代を担う子どもたちが様々な文化芸術に触れる機会を提供することにより、文化芸術を通じた子どもたちの育成を図ります。</p>
○「堺アーツカウンシル」について		
10	<p>「堺アーツカウンシル」を、市民の文化芸術活動と施策を一層推進するものにしてほしい。</p>	<p>「堺アーツカウンシル」は、気軽に市民の方が文化芸術活動について相談してもらえる仕組みです。本市における文化芸術の振興、市民の方々の文化芸術活動などの発展のため、市民の方々からの意見をうかがいながら、効果的に運営し、より良いものにしていきます。</p>
○フェニーチェ堺（堺市民芸術文化ホール）について		
11	<p>フェニーチェ堺は市の文化芸術拠点なので、車椅子席数の増加や一目見てわかりやすい入り口やエレベーター場所の案内表示の設置などを障害者の意見を取り入れながら進めてほしい。</p>	<p>今後も引き続き、フェニーチェ堺へお越しになったすべての方が、来館されてからお帰りになるまで、安全・安心に過ごしていただけるような環境整備に取り組みます。</p>
12	<p>フェニーチェ堺について、ある程度は稼ぐことも必要である。今後は都市間競争を煽るのではなく、周辺自治体ともよく協議をして集客分散を図り、また施設維持負担に関しても自治体連携を図る新たな仕組み構築が必要になってくるかもしれない。予算に関しては世界文化遺産維持費も含め、大阪市・大阪府とも組んで国への財源をいままですら以上に強め、霞が関に負けず知恵を絞っていただきたい。</p>	<p>フェニーチェ堺は、オーケストラやオペラ、バレエ等の優れた舞台芸術や多彩な公演を開催することにより、市民文化の更なる向上を図りつつ、魅力ある地域社会の形成並びに都市魅力の創造及び発信を行うことを目的としています。</p> <p>今後は大阪府や大阪市のほか、大阪観光局とも連携し、全国規模の学会や大会等の誘致により、貸館稼働率の向上を図るなどして、市の財政負担が軽減されるよう努めます。</p>

第2期堺文化芸術推進計画(案)についてのご意見の要旨と本市の考え方

		また、医療施設を対象にしたアウトリーチ事業や市民参加型ワークショップ等に取り組むなど、公益性と収益性のバランスをとった運営を実施していきます。
○博物館・美術館について		
13	美術館は政令市としての品格と歴史ある文化芸術を生かした堺のまちづくりに絶対必要な施設であると考えるので、次期計画に、美術館の建設を入れてほしい。	現在、堺市博物館の老朽化が顕著な状況にあり、また、堺市立文化館で展示しているアルフォンス・ミュシャ作品については、より効果的な展示に向けた環境の改善が必要です。これらの課題や現状を踏まえ、既存施設等の保存及び活用の在り方を検討した上で、堺の歴史文化の発信や市民の郷土愛の醸成に資する施設としての今後の在り方や方向性についても検討します。
14	博物館・美術館が次代を担う子どもたちの可能性を文化芸術を通して引き出すためには、専門的知識の豊富な学芸員と教育の専門家である教員の連携を支援するコーディネーターの存在が必要である。	堺市博物館では、教育普及の一環として、小中学生の社会見学を受け入れるとともに、体験学習会など、個別で歴史文化に触れる事業も展開し、毎年多くの子どもたちに参加いただいております。これらの取組みを今後も継続的に実施します。また、「堺アーツカウンシル」も、文化芸術を通じた学校園を含む様々な事業主体間の連携を支援するコーディネーターとしての役割を担います。
15	博物館・美術館等の質の高い活動を支える人材を確保するため、学芸員や教育普及等を担う専門職員の研修を充実させることが必要である。	学芸員の本来業務である資料の収集保存や調査・研究及び教育普及といったスキル向上のため、文化庁等が主催する研修に参加し、学芸員の資質向上に努めております。
16	人口過少地域における博物館の活動の活性化を図るため、情報通信技術の活用により、遠隔地間の連携による研修や遠隔講座等の実証研究を行ってほしい。	堺の歴史文化の発信強化を図るため、インターネットを活用した展示品解説の動画配信など、遠隔地の方でも身近に堺市博物館の展示内容を知っていただく取組みを行っています。今後は ICT を活用した更なる所蔵資料の発信の強化に努めます。
○「仁徳天皇陵古墳」について		
17	「仁徳天皇陵古墳」は、学術的には「大山古墳」もしくは「大仙陵古墳」と呼ばれていることから、呼称について一考いただきたい。	古墳は1600年にわたって守られてきたものであり、その長い歴史の中で「陵名」や所在地を用いた名称など様々な呼称が生まれました。また地域住民の間では、親しみを込め

第2期堺文化芸術推進計画(案)についてのご意見の要旨と本市の考え方

		<p>て「仁徳さん」とも呼ばれています。仁徳天皇陵古墳については、世界遺産への推薦にあたり、有識者や関係機関と協議し、「仁徳天皇陵古墳」としました。古墳の様々な呼称には古墳の歴史とそこに関わる多くの人々の思いが反映されており、いずれも尊重しながら、登録時の名称を用いて情報発信を行います。</p>
○計画の広報について		
18	<p>市広報をもっとビジュアル的にし、これぞという事業については、視覚的に訴え、宣伝力を強めてほしい。</p>	<p>堺市広報戦略に基づき、広報さかいを堺市の変化や魅力を市民により伝えられる媒体として再構成する予定です。</p>